

あらたな戦前にさせない!

2023憲法大集会 東京・有明公園に2万5000人参加

憲法施行から76年を迎えた憲法記念日である3日、憲法を守り生かそうと全国で集会やデモが行われました。東京・有明防災公園で開かれた集会には、新型コロナ流行以降で最大規模となる2万5000人（主催者発表）が参加。川越・東松山民商からも集会に参加をしました。

岸田大軍拡ストップ—この一点で国民的大運動を起こそう

日本共産党をはじめ4野党の代表も参加し、日本を「あらたな戦前にさせない」とアピールしました。

同集会実行委員会の高田健さん（総がかり行動実行委員会共同代表）があいさつし、岸田首相が来年9月までの任期中に改憲を目指すことと公言したことに触れ、「やるべきは平和の準備です。全国でたたかい、阻止しよう」と呼びかけました。

共産党の志位氏、立憲民主党の西村智奈美代表代行、れいわ新選組の櫛渕万里共同代表、社民党の福島瑞穂党首があいさつ。参加者と一緒に壇上から「敵基地攻撃能力いらぬ」などと書かれたプラカードを掲げました。

志位氏は、岸田政権が進める大軍拡について、「憲法9条も、『専守防衛』もかなぐり捨て、日本を他国の領土を攻撃する『戦争国家』に変える—これが正体だ」と告発。5年間で43兆円の軍事費を捻出するための「軍拡財源法案」のでたらめな中身を批判し、「平和も暮らしも壊す岸田政権の大軍拡ストップ—この一点で立場の違いを超えて大同団結して、この日を出発点にして、国民的大運動を起こそう」と訴えました。志位氏が、「戦争の準備ではなく、平和の準備を、そのために力を合わせましょう」と訴えると会場から大きな拍手と歓声が湧き起こりました。

市民3氏によるメインスピーチで、室蘭工業大学教授の清末愛砂さんは、物価高騰の中で賃金の大幅引き上げは実現しない一方、軍事費は約43兆円に増額されようとしていると語り、「力あるものが、力ないものを踏みにじろうとしています」と告発。「あらたな戦前」をとめるために、つながりながら、よりよい社会を求めていこうと話しました。集会後、パレードしました。



婦人部第12回総会&バス旅行 一久しぶりの再会で、会話に華咲く

川越・東松山民主商工会婦人部は4月25日(火)、第12回総会を行いました。コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となり、交流を兼ねてバス旅行で行いました。

総会では、今までの自粛期間で持てずにいた部員同士の交流を深める、おしゃべりカフェを開いていくことと、様々な要求の解決に向けて力を合わせていこうと決意を新たにしました。

2部の旅行会では、3年ぶりというのを感じないほど部員同士で会話が弾み、バスの中で参加者が思い思いに持ち寄った手料理などが食べきれないほど配られ、朝から美味しいご馳走で盛り上がりました。

今回の旅行先は、茨城県・ひたち海浜公園。あたり一面に広がるネモフィラの花畑を散策し、近くのイチゴ農園でいちご狩りをしました。イチゴを栽培しているリフトが地上から吊り上げられて、空中に設置をされていたので、地面にかがまずにイチゴを収穫できました。みんなどのイチゴが甘いのかを楽しみながら探して、お腹いっぱいイチゴをいただきました。帰りのバスでは、ビンゴ大会を実施し手作りの化粧ポーチなどの景品に「どれも素敵で選べないよー」とうれしい悲鳴を上げていました。参加者から「久しぶりの日帰り旅行は、本当に楽しかった」「みんなと会っておしゃべりが出来て良かった。次も参加します」笑顔で話してくれました。



編集後記 新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけが8日から「5類」に移行され、感染対策は個人の判断が基本となりました。大型連休から、イベントが4年ぶりに開催されたり観光地はコロナ前に近い賑わいを見せていました。ただウィルスが消えたわけではないので、感染対策を忘れずにいましょう。

